

直売所を核とした地域の活性化

高萩市の花貫地区は過疎高齢化の進む地域であり、地域活力の低下が問題となっています。地域の農業者は少量多品目生産を行っており、この地域の中心にある花貫物産センターを主な出荷先としていますが、この物産センターの販売額は平成16年から年々減少していました。

そうした中で、平成21年度から直売所の運営を担う「花貫物産センター利用組合」を対象に、農産加工品の商品化、都市との交流促進、生産者のエコファーマー認証取得など、花貫物産センターを拠点とした地域活性化に取り組んでいます。

● 魅力ある直売所づくり ●

生産者自身が直売所運営に取り組むこととなったため、接遇や商品陳列などの研修会を開催しました。さらに、農村女性大学を活用し、常陸大黒の商品化や、果樹や山菜の栽培指導をとおして、商品の充実を図りました。

その結果、常陸大黒の煮豆をはじめ5品目の農産加工品が商品化、ウドなど3品目が導入され、物産センターの直売部門販売額が5年ぶりに上昇しました。



農村女性大学の開校式



夏季のトウモロコシ収穫体験会

● 都市農村交流の推進 ●

「花貫物産センター利用組合」と「高萩市里山づくり委員会」が連携し、耕作放棄地解消や地域の交流人口の増加を目指して、そば作り、トウモロコシ収穫体験会を開催しました。

交流会では約200名の参加者が作業を通して農業者と交流し、地域交流人口の増加につながりました。

● エコファーマーの推進 ●

環境にやさしい農業の推進と、魅力ある直売所づくりに向けて、集落単位にエコファーマー説明会を実施し、直売所出荷者全員がエコファーマー認証を取得しました。

花貫物産センター利用組合の運営2年目となる平成22年度も、直売所の運営改善や都市農村交流による地域活性化に向けて支援を行っていきます。



生産者全員がエコファーマー認証取得